

札幌市立上白石小学校の取組 【読書：図書館モデル公開授業】

1. 研究のねらい

- 本を探す活動を通して、本の分類法や配架の工夫などについて知るとともに、自分たちの調べ学習に、もっと図書館の本を利用しようという意欲をもつ。
- 下学年への読み聞かせやブックトークに使用する本を選ぶ活動を通して、読書に対する意識をより高める。

2. 取組内容

子どもたちの周りには当たり前のようにネット環境があり、学習の中で何かを調べようという際には、すぐに「パソコン室に行こう。」といった状況になりやすい。インターネットで調べることも一つの方法ではあるが、図書館の本を用いて調べる活動を通して、自分に必要な情報を探し出す楽しさや、図書館にある資料の大切さをしっかりと味わわせたいと考えた。そこで、中央図書館のたくさんの蔵書に触れながら、楽しく本を探し出す活動ができるよう、「指令書」を基にした活動を考えた。

(1) 準備（教材づくり）

子どもたちに提示する「指令」になりそうなテーマを、実際に中央図書館に事前に出向き、探した。全部で 24 種類のテーマを作成し、書架の配置が散らばるように組み合わせて、A～L まで 12 に分類した。

	指令テーマ1	指令テーマ2
A	新聞の作り方	星座
B	オリンピックの歴史	サケの一生

次に、テーマをもとに実際に子どもに渡す「指令書」を、以下のように作成した。

	指令1	指令2
カード A	係活動で新聞係になったんだけど、新聞の作り方が今一つ分からない。上手な新聞の作り方が知りたいなあ。	星ってとってもきれいなね。星座にはお話があって、ロマンチックだね。星座のことについてもっと知りたい！
カード B	東京でもオリンピックをやるらしい。テレビでソチとか北京とか言っているけれど、オリンピックっていつからやっているの？オリンピックの歴史について今すぐ知りたい！	マグロかサーモンで言うと、サーモンが好きなのわたし。イクラも好き。サケさんいつもありがとう。サケさんってどんな人生なんだろう？サケの一生について知りたいわ。

(2) 当日の活動

①図書館の配架と本の探し方（十進分類法）

まず、司書の方から、十進分類法を基にした図書館の配架の仕組みについての説明を聞き、本の探し方の基本を学習した。子どもたちは、4月に本校で司書教諭から配架の基本を学んでいたため、蔵書数が多い中央図書館で改めて説明を受けることで、本の探し方について実感を伴って捉えることができた。



②「指令」の出題

1. 指令書から各グループ2枚を引く。
2. 指令書に書かれたヒントを基に、その内容が書かれた本を数冊選ぶ。
3. 選んだ本をグループ内で読み合い、一番良いと思った本の奥付を記録する。



③活動の様子

指令を受け取った後、館内地図を見てすぐに目的の書架を見付けたり、十進分類法の一覧を見て、目指す書架の見通しを立ててから移動したりするなど、配架の工夫について学んだことを生かして活動していた。指令をクリアした後は、時間までたっぷりと読書に浸ることができた。



3. 成果と課題

(1) 成果

身近に大きな公共図書館がない環境にある子どもたちにとって、中央図書館の膨大な蔵書に触れること自体が貴重な経験であり、どの子も大変興味をもって参加していた。

また、これまではインターネットで調べること一辺倒であった子どもたちが、本で調べるよさを実感し、その後の調べ学習では、学校図書館の本を積極的に活用しようとする姿が多く見られるようになった。また、中には後日、家族と一緒に中央図書館まで行った児童もおり、今回の学習が、日常的な図書館活用の動機付けとなったことが伺われる。



今回は、子どもたちが本を探すためのテーマを教師から提示したが、ゲーム的な要素を盛り込むことで、子どもたちは楽しみながら「本の探し方」を学ぶことができた。また、テーマを教師側から提示したことによって、自分の興味に関わらずいろいろな蔵書に触れたことも、子どもたちの読書の幅を広げることにつながったと考える。

(2) 課題

本を探すテーマを教師側が提示するよさはあるが、子どもにとって探し出す必然性があまりなかったことで、学習の深まりに課題があったと考える。今後は、各教科等における調べ学習とリンクさせるなどして、子どもにとって、調べる必然性の高い活動にしていきたい。